

# 川内地区 地震・津波避難 支援マップ

平成27年3月版

## ■地震・津波避難支援マップとは

このマップ(地図)は南海トラフ巨大地震で襲来する津波に対して、住民一人ひとりが安全で円滑な避難を日常的に考えるための情報を集めたものです。災害時に使う避難マニュアル(指示書)ではありません。家庭や職場の避難マップ作りや避難訓練にお役立て下さい。マップは6ページ(3枚)で構成されています。津波の予想浸水域・浸水深、避難時の服装、非常時持出品等は『徳島市地震・津波防災マップ(H26年3月作成)』に説明されています。

## ■徳島市津波避難ビルと協議会津波避難ビル

徳島市津波避難ビルは、①鉄筋コンクリート造、②新耐震設計基準(昭和56年施行)適合、協定書が交わされた津波避難ビルです。協議会津波避難ビルは、上の条件全てを満たすものではありませんが、川内まちづくり協議会と川内南コミュニティ協議会が津波避難ビルで使用できると判断して独自に管理者の協力を取りつけた津波避難ビルです。いずれも一時避難場所として階段・廊下の備蓄は指定避難所(小・中学校、町民会館)を除いてありません。避難先名称(数字)は施設避難スペースの収容人数(概数)です。

夜間・休日に施錠される施設には鍵保管庫がつけられています。震度5強以上の揺れが感知されるが解錠され、施設入口の鍵を取り出せます。鍵保管庫の位置は『鍵保管庫がある津波避難ビル』の写真をご覧ください。高速道路に併設された富吉避難場所と米津避難場所の鍵は、付近の複数の住民の方が保管しており、災害時に解錠されます。

避難施設は現在も増え続けています。徳島市ホームページで確認して下さい。また話事情でマップに載せていない施設もありますので、町内会・自主防災会にお問い合わせ下さい。

## ■避難路と避難方向

主要避難路は見通しが良好で閉塞の可能性が低いものと考えられるもので、最寄りの津波避難ビル等への方向を併記しています。万が一に備えて複数の避難施設を検討して下さい。主な施設には災害時に約20分で到達可能な範囲を示した円をつけてあります。近くの津波避難ビル等まで歩いて、避難路上の危険箇所、建物入口、所要時間等を確認しておきましょう。

## ■地盤沈下・液状化現象等の避難の障害、徒歩による避難速度

川内地区は干拓地や旧河道など軟弱地盤が多いため、地盤沈下・液状化現象が発生しやすいと考えられます。地盤沈下・液状化現象が起これると地面に砂や水が噴き出しますが、現象が終わった後は歩行できなくなる場合があります。また下水管やマンホール等が浮き上がる等の可能性もあります。これら以外にも、家屋やブロック塀、電柱等の倒壊、土葺きの屋根瓦の落下等も避難の障害になります。また高齢者や高齢者、幼児を介助しながらの避難になるため、徒歩による避難速度は平常時(分速80m)より低下します。東日本大震災を対象にした調査結果の平均値は分速38mでした。このマップでは避難速度を分速35m(平成5年の北海道南西沖地震における60歳以上の避難速度)と想定して、主な津波避難ビル等に20分程度で避難できる半径500m円を描いています。700mでない理由は、実際の避難路が折れ曲がっているためです。

## ■地盤標高と津波の高さ

地図に示した地盤標高は東京湾平均海面(T.P.)の高さを基準とした海拔です。徳島県が公表する津波高さの予測値(例えばマリノピア東端で5.0m)は、期望平均満潮位\*+0.876m(徳島・小松島)を加えて計算しT.P.上の高さです。  
\*期望平均満潮位：新月および満月の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値のこと

東亜合成緑地の地盤高は5m程度と高いですが、遡上する津波を真正面から受け止める位置にあり、浸水の可能性が高いので避難場所には適しません。



マップ①

マップ②

マップ④

マップ⑤



徳島市地震・津波防災マップ  
平成26年3月作成



平成27年3月現在、鍵保管庫(1)が取り付けられている津波避難ビル等が9箇所あります。かぎ保管庫には、①建物入口の鍵、②懐中電灯、③パールのほか、建物内部の平面図が入っています。

徳島市マリノピア東端では地震発生41分後に津波が到達(20cmの水位上昇)し、53分後には津波の高さが最大(5.0m)になると予想されています。

今切川を遡上する津波は複雑な反射を繰り返して、高くなる可能性があります。

想定されている南海トラフ巨大地震に伴う津波によつて、川内地区は全域が浸水すると予想されています。浸水深は地盤高が低い所で5m、高い所で1m程度と予想されています。詳細は『徳島市地震・津波防災マップ』(平成26年3月作成)をご覧ください。

## 【全体マップ】

1000m 0m

製作：川内まちづくり協議会／川内南コミュニティ協議会／川内町自主防災組織連絡協議会／徳島大学環境防災研究センター／徳島市(問合せ先：川内まちづくり協議会 088-665-1712)







# 川内地区 地震・津波避難支援マップ② (沖島・竹須賀・平石・米津・富吉)

平成27年3月

## 鍵保管庫のある津波避難ビル(1)



川内町民会館 (正面玄関)

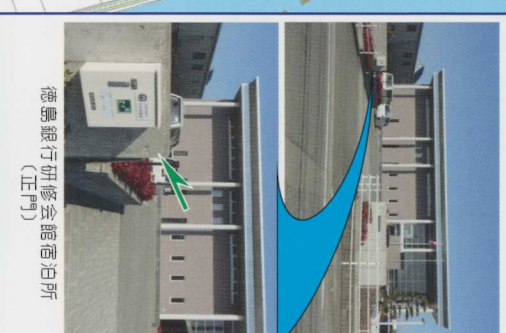


スペーストラ川内 (北側屋外階段付近)

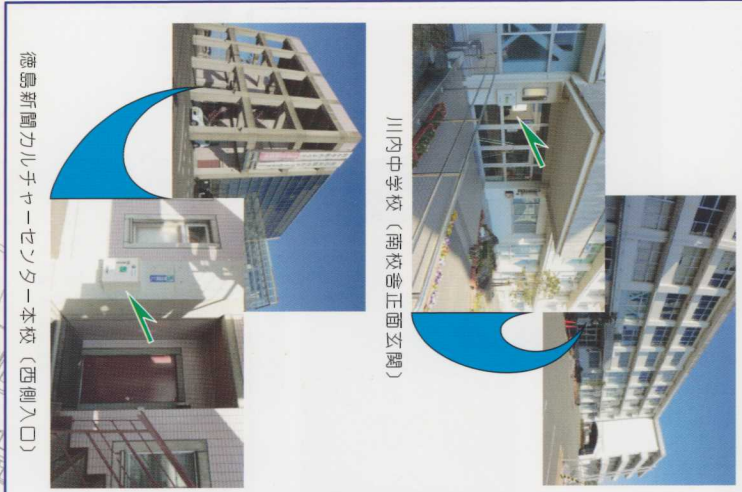


川内北小学校 (中校舎正面玄関)

## 鍵保管庫のある津波避難ビル(2)



徳島銀行冊修会館泊所 (正門)



川内中学校 (南校舎正面玄関)



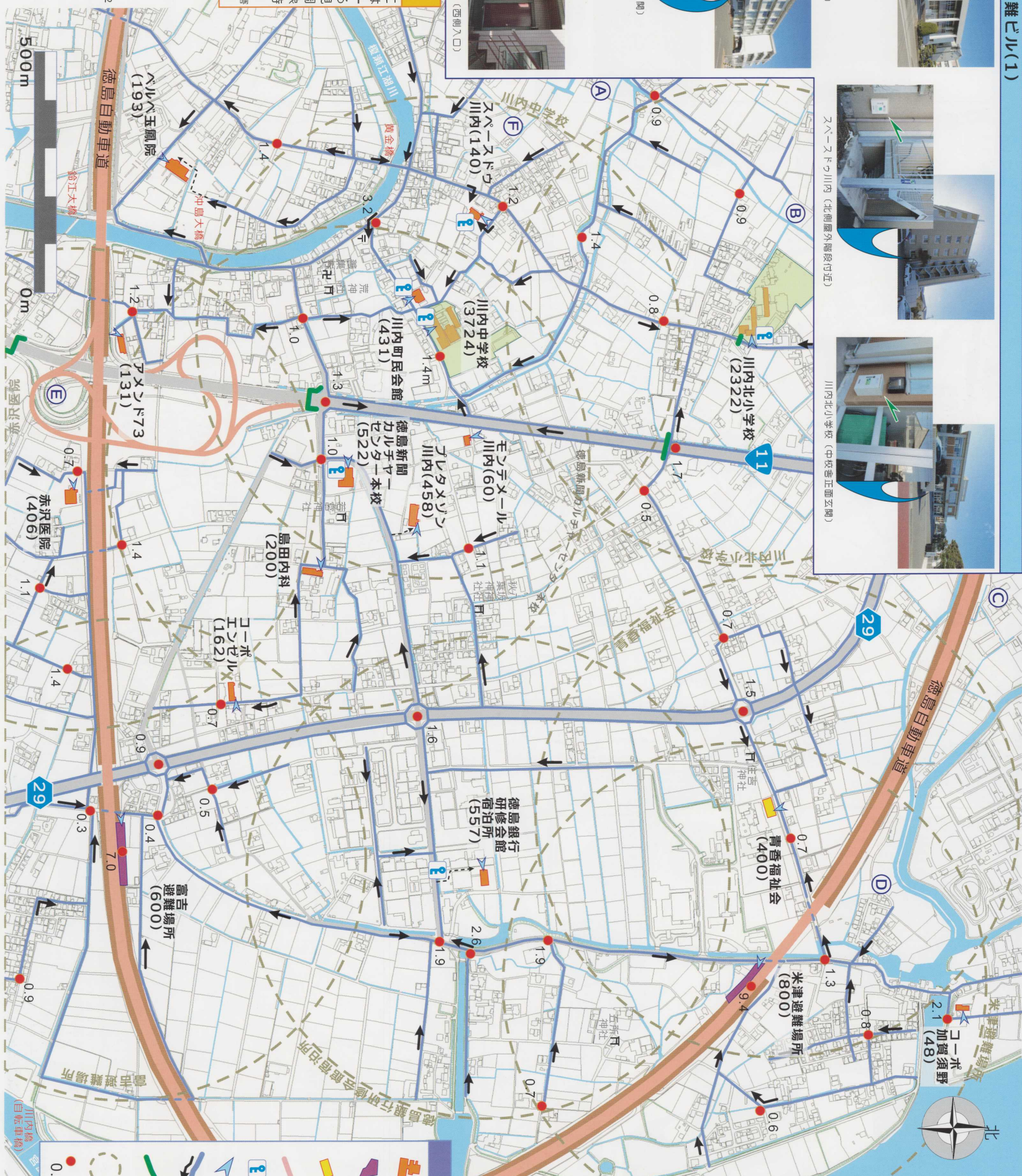
徳島新聞カルチャーセンター本校 (西側入口)

### 地盤沈下・液状化が起こりやすい所

この地域は旧河道が縦横に走っています。大きな筋はA-B-C-DとEの2本です。地図を見ると旧河道に沿う形で水路が見えます。旧河道およびその周辺では地盤沈下や液状化現象が発生しやすいので、避難時に注意して下さい。

参考：国土交通省 吉野川流域水害地形分類図(1)、平成7年3月

製作：川内まちづくり協議会  
川内南コミュニティ協議会  
川内町自主防災組織連絡協議会  
徳島大学環境防災研究センター  
徳島市  
お問合せ先：  
川内まちづくり協議会 088-665-1712



**津波**  
初期水位+20cm  
地震発生41分後  
最大波高5.0m  
地震発生53分後  
(沖洲・ワリンピア東端)

### 記号の説明

- 徳島市津波避難ビル (収容人数)
- 徳島市緊急避難場所 (収容人数)
- 協議会津波避難ビル (収容人数)
- 協議会緊急避難場所 (収容人数)
- 鍵保管庫
- 避難施設入口
- 幹線避難路と避難方向
- 階段・歩道橋
- 主な避難施設から半径500m圏 (災害時徒歩移動20分圏)
- 地盤の高さ (海拔(m))

この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令第225号)



# 川内地区 地震・津波避難支援マップ③ (榎瀬・久木・沖島・北原・上別宮・金岡) 平成27年3月

鍵保管庫のある津波避難ビル(1)



徳島県生コンセンター (北側屋外階段前)

川内北小学校 (中校舎正面玄関)

鍵保管庫のある津波避難ビル(2)



川内町民会館 (正面玄関)



川内中学校 (南校舎正面玄関)

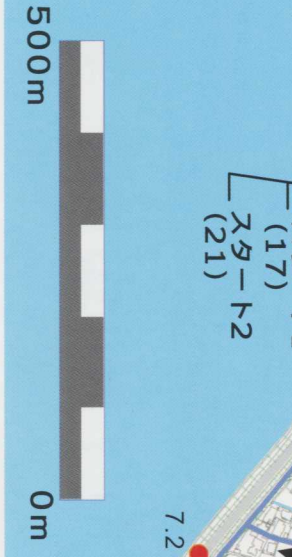


**吉野川堤防の高さ**  
 武田ビル付近の堤防の高さは7.2m、堤内側側道の高さ2.6m、県道39号吉野川橋付近の堤防の高さは7.5mとなっています。

**地盤沈下・液状化が起こりやすい所**  
 金岡、上別宮、北原付近は干拓地です。また市立舞祭場の西にある水路沿い(A-B-C)や、マツパ②に書いたようにD-Eの筋にも旧河道があります。旧河道やその周辺では地盤沈下や液状化現象が発生しやすいので、避難時に注意して下さい。

参考：国土交通省、吉野川流域水害地形分類図(1)、平成7年3月

**津波**  
 初期水位+200cm  
 地震発生41分後  
 最大波高5.0m  
 地震発生53分後  
 (沖洲マリンピア東端)



**記号の説明**

- 徳島市津波避難ビル (収容人数)
- 徳島市緊急避難場所 (収容人数)
- 協議会津波避難ビル (収容人数)
- 協議会緊急避難場所 (収容人数)
- 鍵保管庫
- 避難施設入口
- 幹線避難路と避難方向
- 階段・歩道橋
- 主な避難施設から半径500m圏 (災害時徒歩移動20分圏)
- 地盤の高さ (海拔(m))

製作：川内まちづくり協議会 / 川内南コミュニティ協議会 / 川内町自主防災組織連絡協議会 / 徳島大学環境防災研究センター / 徳島市 (お問合せ先：川内まちづくり協議会 088-665-1712)

【この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令第225号)】

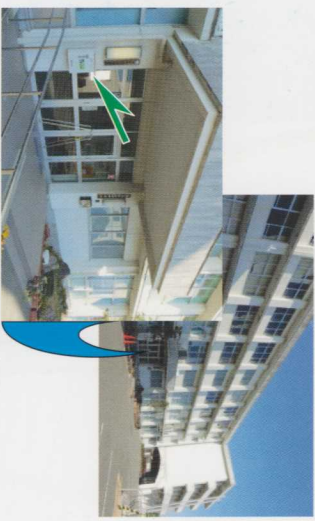


# 川内地区 地震・津波避難支援マップ④ (沖島・鈴江・鶴島・宮島・松岡・富吉・富久) 平成27年3月

鍵保管庫のある津波避難ビル(1)



川内町民会館 (正面玄関)



川内中学校 (南校舎正面玄関)



川内南小学校 (西校舎東側入口)

鍵保管庫のある津波避難ビル(2)



徳島銀行研修会館宿泊所 (正門)



徳島新聞カルチャーセンター本校 (西側入口)

## 記号の説明

- 徳島市津波避難ビル (収容人数)
- 徳島市緊急避難場所 (収容人数)
- 協議会津波避難ビル (収容人数)
- 協議会緊急避難場所 (収容人数)
- 鍵保管庫
- 避難施設入口
- 幹線避難路と避難方向
- 階段・歩道橋
- 主な避難施設から半径500m圏 (災害時徒歩移動20分圏)
- 地盤の高さ (海拔(m))

製作：川内まちづくり協議会

川内南コミュニティ協議会

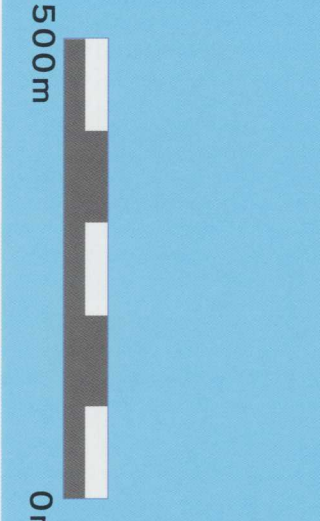
川内町自主防災組織連絡協議会

徳島大学環境防災研究センター

徳島市

お問合せ先：

川内まちづくり協議会 088-665-1712



**地盤沈下・液状化が起こりやすい所**  
 平石流通団地東側の南北に伸びる道路から富吉八幡神社、県道29号付近より東側は干拓地です。また鶴島の荒神社から川内中学校にかけて2本の旧河道(A)-(B)-(C)とD-(E)-(F)が走っています。これらの場所では地盤沈下や液状化現象が発生しやすいので、避難時に注意して下さい。  
 参考：国土交通省、吉野川流域水害地形分類図(1)、平成7年3月

**津波**  
 初期水位+20cm  
 地震発生41分後  
 最大波高5.0m  
 地震発生53分後  
 (沖洲ウリソビテ東端)



川内南小学校 (西校舎東側入口)  
 川内中学校 (南校舎正面玄関)  
 川内町民会館 (正面玄関)  
 徳島銀行研修会館宿泊所 (正門)  
 徳島新聞カルチャーセンター本校 (西側入口)

この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2500地形図を複製したものである。  
 (承認番号 徳島市指令取第225号) J



# 川内地区 地震・津波避難支援マップ⑤ (下別宮・小松・旭野)

平成27年3月

## 鍵保管庫のある津波避難ビルと緊急避難場所



### 記号の説明

- 徳島市津波避難ビル (収容人数)
- 徳島市緊急避難場所 (収容人数)
- 協議会津波避難ビル (収容人数)
- 協議会緊急避難場所 (収容人数)
- 鍵保管庫
- 避難施設入口
- 幹線避難路と避難方向
- 階段・歩道橋
- 主な避難施設から半径500m圏 (災害時徒歩移動20分圏)
- 主な避難施設から半径750m圏 (災害時徒歩移動30分圏)
- 地盤の高さ (海拔(m))

### 地盤沈下・液状化が起こりやすい所

旭野と小松東の住宅地区、若宮神社と栗師寺を結ぶ地区は共に砂州で、その他は干拓地です。A-Bを結ぶ筋には旧河道があります。下別宮・小松・旭野地区は特に地盤沈下や液状化現象が発生しやすいので、避難時に注意して下さい。

参考：国土交通省、吉野川流域水害地形分類図(1), 平成7年3月

### 相生橋を経由して阿波しらすき大橋への避難

相生橋が地震で破損して渡れなくなった場合でも、時間に余裕があれば、四国大学堤防島グラウンドを通って、傾斜道路を上ること、阿波しらすき大橋への避難が可能です。

### 自動車を使った避難 (吉野川堤防利用)

- 避難は原則徒歩です。しかし津波避難ビルや緊急避難場所までの距離が長い旭野地区からの避難では、自動車を使った鶴島グラウンドへの避難も考えておく必要があります。その時は以下の点に注意して下さい。
- 1) 徒歩避難者の安全を確保して下さい。
  - 2) 地震や液状化による道路の破損・障害物の散乱等によって、車での避難ができなくなる可能性があります。途中で車を置いて避難する場合は、道路の左側もしくは道路外に車を止め、プロロツクはせずエンジンキーは付けたままとして下さい。
  - 3) 四国大学鶴島グラウンド到着後は、後続車のためにグラウンドの奥の方から駐車して下さい。



### 自動車での避難速度

国土交通省「東日本大震災の津波被災現況調査結果(第3次報告)」によると、車の避難速度は平均9.0km/時で、「信号が点灯していなかった」「渋滞で動けなかった」が大きな理由でした。このマップに記載している車の避難所要時間はこの値を川内町では地盤沈下・液状化の影響の可能性がおります。

四国大学  
鶴島グラウンド  
まで2800m  
約19分

四国大学  
鶴島グラウンド  
まで1600m  
約11分

### 津波

初期水位+20cm  
地震発生41分後  
最大波高 5.0m  
地震発生53分後  
(沖洲マリンピア東端)

製作：川内まちづくり協議会 / 川内南コミュニティ協議会 / 川内町自主防災組織連絡協議会 / 徳島大学環境防災研究センター / 徳島市 / 徳島市市長の承認を得て、1/2500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令部政第225号)